

くらしと環境をつなげて考える

食べものをどのように選び、どんなくらし方をするのかは、環境や生物多様性とも密接に関わっています。一次産業や里山の体験を通じ、こうした学びを広げています。

1 生産と消費をつなぐ取り組み ～とれぴち&とれしゃき～

ライフスタイルや社会環境の変化は、生活者と生産者・生産環境など「食を支える人々・環境」とのさまざまなつながりを切り離してきました。持続可能な食べものの生産が、私たちの豊かな食卓やくらしとも密接に関わっていることがイメージしにくいと、食べものの選択基準も、安全性、価格、おいしさ、利便性といった生活者目線に偏りがちです。

このため、2013年度から、兵庫県漁業協同組合連合会とも連携して「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれぴち)」を推進し、地元の魚介類のおいしい食べ方、漁業の現状や漁業者の取り組み、環境とのつながりの学習を行ってきました。

2015年度からは、野菜・米にも学びの領域を広げ、兵庫県がすすめる兵庫県産野菜バリューチェーン構築事業と連携し、全国農業協同組合連合会・兵庫県本部の協力を得て、「兵庫地場野菜振興プロジェクト(とれしゃき)」にも着手しました。両プロジェクトを合わせて店頭ミニ調理講習502回、料理会・学習会104回、産地体験22回を実施し、のべ49,746人が参加しました。

この取り組みの一環で、地元の食材に目を向け、地域の食文化や風土をあらためて見直し、学ぶ観点から、2015年11月に「ひょうごの食文化フェスタ～食から考える一次産業の今とこれから～」をコー

プこうべの協同学苑で開催しました。独立行政法人水産大学校理事長・鷲尾圭司氏による基調講演をはじめ、JF兵庫漁連、JA兵庫中央会、県森林組合連合会の協力を得て県内産品の展示を行い、のべ500人が参加しました。



ひょうごの食文化フェスタの様子

2 里地・里山整備を通じて 食べものやくらし方を考える取り組み

コープの森・社家郷山

兵庫県企業の森づくり制度の第1号として、2008年度からスタートした取り組み。この間、社家郷山での生物多様性の保全、そして循環の学びと活動の基盤づくりをすすめてきましたが、当初予定していた10年間の区切りをひかえ、それ以降も地域を中心に継続的に活動が展開されるよう、西宮市や近隣の学校等との連携強化をすすめています。2015年度は、1,473人が学習や活動に参加しました。

社家郷山の歴史や生息する生きものなど、その魅力を多くの方にお知らせするため、2015年12月には、ハイキング道「四季の道」沿いに学びのパネルを10基設置し、西宮市に寄贈しました。さらに、社家郷山が環境省「生物多様性保全上重要な里地里山(略称:重要里地里山)」(500箇所)※1に選定されたことから、環境省からの来賓も得て、2016年3月7日にパネルの除幕&寄贈式を行いました。



パネルの除幕&寄贈式

注) 環境省は、さまざまな命を育む豊かな里地里山を、次世代に残していくべき自然環境の一つであると位置づけ、全国で500箇所を選定。

みんなの牧♥里プロジェクト

食べものとの生産・環境のつながりを身近な地域で学ぶ素材のひとつとして、大阪北地区エリア内の豊能町牧地区で「みんなの牧♥里プロジェクト」がスタートしました。大阪府アドプトフォレスト制度(企業の森づくり制度の大阪府版)のもと、大

阪府、豊能町、地元の牧農空間活性化協議会と四者で協定を結び、遊休農地の再生と耕作、そして竹林整備を通じた食と環境の体験学習をすすめています。

2015年8月には、コープくらぶ「とよの里山くらぶ」が立ち上がり、体験イベントのサポートや農地や作物の維持管理に取り組んでいます。11月25日にはボランティア25人による休耕田の開墾を行い、12月5日のキックオフイベント(大根・カブ・白菜の収穫)には100人以上の組合員が参加しました。



キックオフイベント

3 コープこうべ 環境基金の取り組み

21団体に総額268万円を助成しました

兵庫県内で自然環境の保護や活用の実践活動や啓発活動、ならびに実証的調査・研究を行う団体の活動資金を助成する公益信託「コープこうべ環境基金」。

2015年度は、生物多様性の保全、希少種・在来種復元、食べものと環境のつながりといった視点が盛り込まれている活動を中心に、21団体に総額268万円を助成しました。また、

6月には宅配と店舗で集中募金をを行い、約170万円が集まりました。



助成先 NPO法人 たつの・赤トンボを増やそう会

4 商品利用で産地の環境を 保全する取り組み

コープこうべでは、コープ商品の利用を通じた募金活動により、産地の環境保全に取り組んでいます。

2015年度は、新たにうなぎ資源が危機的な状況の中、鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会では河川整備の研究、すみかとなる石倉カゴの設置など、うなぎが育つための環境づくりに取り組んでいます。コー

プこうべでもこの取り組みに賛同し、コープのうなぎ1パックにつき3円を寄付しました。これまでも、コープ衣料用洗剤セフター・あおぞらの利用で「ボルネオ緑の回廊プロジェクト」やコープスもずくの利用で「沖縄恩納村のサンゴの森づくり」への募金活動にも継続的に取り組んでいます。

募金の総額	金額
「ボルネオ緑の回廊プロジェクト」	511,996円
「沖縄恩納村のサンゴの森づくり」	291,745円
「鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会」	1,035,027円

TOPICS

第3回 食と農林漁業の食育優良活動表彰 「農林水産大臣賞」(企業部門)を受賞

1924年(大正13年)の家庭会の創設以来、90年にわたり組合員発ですすめてきた食生活ニーズに対応した食育活動や学習、とれぴちなど消費と産地をつなげた食育活動、そして環境共生型農園エコファームでの資源循環の学習などの取り組みが認められたものです。2015年9月に東京で表彰式が行われ、活動の概要についてプレゼンテーションを行いました。



中川郁子農林水産大臣政務官(左)から記念の盾を授与される本田英一組合長理事

コープこうべのあゆみ

年度	主な取り組み
1978	●買い物袋再利用運動を開始 ●食品容器包装フィルムを塩ビからポリエチレンに変更
1981	●有リン洗剤の取り扱いを中止 ●せっけんキャンペーンを開始
1990	●コープの環境月間スタート ●環境統一マーク商品の供給を開始 ●牛乳パックリサイクルが本格的にスタート
1991	●買い物袋再利用運動から「買い物袋持参運動」に ●フードプラン第1号商品開発 ●飲料缶、トレイ、ペットボトルのリサイクル開始
1992	●公益信託「コープ環境基金」を設立
1995	●買い物袋持参運動を拡大して「マイバッグ運動」に
1996	●総代会特別決議として「環境憲章」を採択
1998	●コープ武庫之荘ISO14001取得 ●コープ土づくりセンター完成 ●(有)みずほ協同農園発足
1999	●エコファーム施設の完成 ●食品工場ISO14001取得
2000	●全事業活動でISO14001取得
2001	●第一次環境中期計画策定 ●エコファームを本格オープン
2003	●食品工場の廃棄物処理設備完成
2004	●第二次環境中期計画策定
2005	●ISO14001の環境マネジメントシステムを食品工場と統合 ●フードプラン管理規定の策定 ●食品工場のバイオマス利活用取り組みが、兵庫県「ひょうごバイオマスecoモデル」第1号に認定
2007	●第三次環境中期計画策定 ●「マイバッグ運動」のステップアップ ～レジ袋のレジ精算、食品を扱う150店舗で実施 ●容器包装3R推進環境大臣大賞最優秀賞受賞
2008	●兵庫県、西宮市と企業の森づくり協定締結 ●「コープの森・社家郷山」の取り組み開始
2010	●店舗で卵パック、透明トレイの回収開始スタート ●地産地消の取り組み強化「ひょうご」商品開発
2011	●コープこうべ環境基金20周年のつどい開催
2012	●夏の電力不足に対応し「夏の節電対策手順書」を作成。 15%以上の省エネ、CO ₂ 削減を実施 ●国際協同組合年記念事業「食と環境のシンポジウム」 「虹の仲間と森づくり」開催 ●住吉事務所が関西エコオフィス大賞 「節電の励行部門賞」を受賞
2013	●鳴尾浜配送センターで太陽光発電を開始 ●アルミ付紙パックの回収開始
2014	●子会社の㈱ゆうあいサポートで店頭回収の ペットボトルのプレス作業開始 ●ISO14001の認証を返上し、自主運用に切り替え ●子会社の㈱コープ環境サービスで、 宅配の商品情報紙「めーむ」の圧縮作業を開始
2015	●再生可能エネルギーを利用する電力供給事業を開始 (コープこうべの42事業所に電力供給) ●「おおさか環境賞」の準大賞を受賞 ●「播磨町におけるレジ袋削減に向けた取り組みに 関する協定」を締結 ●ペットボトルのキャップの回収開始 ●第3回 食と農林漁業の食育優良活動表彰 「農林水産大臣賞(企業部門)」を受賞 ●コープの森・社家郷山が環境省「生物多様性保全上 重要な里地里山」(500箇所)に選定 ●宅配返品商品のフードバンク関西への提供開始 ●みんなの牧♥里プロジェクトの取り組み開始
2016	●再生可能エネルギーを利用する電力供給事業所を 拡大(コープこうべの88事業所に電気供給) ●子会社の㈱コープ環境サービスで、宅配の 商品配達用ポリ袋の圧縮作業を開始